

国見町岐部地区で耕作放棄地に新しい試み

10月10日(休)午後1時30分から国見町岐部地区で、耕作放棄地が抱える問題を解決するために、牛の放牧事業が始められることになり、その放牧式が行われました。

式では、中岐部区の宮本碩彬区長が「今日放牧する4頭の牛は、大分県の畜産試験場から約2ヵ月間借りたものです。牛の世話は地元『国見町十日会』の有志6人で行います。皆さん、この牛たちを可愛がってください。」とあいさつ。続いて、野田侃生市長が「耕作放棄地は、イノシシやシカの隠れる場所や通り道となり、周辺の農地を荒らす原因となるとともに、病害虫の温床になる恐れがあります。今日から、県のご協力をいただき、試験的に放牧を行います。農地・農村景観の保全の面からも期待し

ています。また、畜産振興の一助になればありがたいと思っています。関係者の皆さんの頑張りに敬意を払うとともに、期待しています。」と激励のあいさつをしました。



国東乾しいたけのさらなる品質向上をめざして

9月20日(休)午前10時から「いこいの村国東」に市内の椎茸生産農家を中心に約300人が集まり「乾しいたけ品質向上研修会」が行われました。この研修会は、大分県椎茸農協国東地区連合会(土谷繁文会長=国見町)と大分しいたけ源兵衛塾研修会の主催によるもので、主催者のあいさつの後来賓として、三河明史大分県東部振興局長、野田侃生市長と井上良司大分県椎茸農協代表理事組合長が激励のあいさつをしました。

この後、研修会にはいり静岡県伊豆市で椎茸生産をしている朝香精一郎さんが「良質椎茸生産と茶花冬菇づくりのポイント」と題して講演をしました。

この日は、午後2時30分までさまざまな研修が行われ、出席した皆さんは終始熱心に参加していました。

乾椎茸の市場価格は、中国産の農薬問題や健康食品ブーム、そして、品薄感等から高値で推移しており、会場は熱気にあふれていました。

土谷会長の話。「椎茸産業を取り巻く環境は、生産者の高齢化や後継者不足に加え、異常気象による発生のはらつきや作柄不良等、非常に厳しい状況が続いています。しかし、県や市、関係団体のご指導、ご支援に加え、消費者が食の安全、安心を強く意識して、国産原木椎茸に関心が向かっており、しかも中国産椎茸の輸入減少等により価格もようやく安定してきました。

また、今年7月に大分県で開催された全国乾しい

たけ品評会で、わが国東支部の小野三邪子さんが農林大臣賞に、竹中秀徳さんが林野庁長官賞に輝き、そのほかにも30数点が入賞したことは国東産椎茸の質の高さと組合員の栽培技術と努力のたまものであると喜んでいきます。

大分県内5支部の中で、組合員数、生産量、販売高は竹田支部に肩を並べ、平均単価や種駒の植菌量は県内一です。国東支部の皆さんが元気をだすことが組合の発展と全国一のブランド維持につながるわけです。

大分県椎茸組合は今年で創立百周年を迎えました。先人の残した乾椎茸産業をいっそう発展させるために「一戸一箱増進」運動を展開したいと思っています。

私たちは、今こそ組合の原点を見つめながら全量出荷のもと所得の向上と地域の発展に向かって連携の絆を一層強めなければならないと考えています。」



▲土谷繁文会長



▲熱心に講師の話を聴く参加者の皆さん